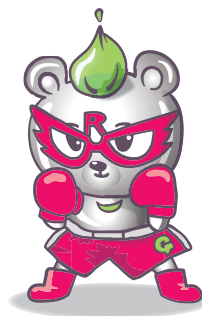


房水の制御機構と 眼圧下降療法



日時 2016年4月8日(金) 7:45～8:45

場所 第6会場(仙台国際センター3F 白樺1)
〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山



座長 桑山 泰明 先生
(福島アイクリニック 院長)

【座長のことば】

ヒトでは、房水の80～90%は眼圧依存的に線維柱帯・シュレム管、いわゆる主流路を經由して流出するとされている。この主流路は、緑内障での眼圧上昇の主な原因部位でもある。従来から、この経路が房水制御機構として重要な役割を担っていることは知られていたものの、なかなか研究が進まない領域でもあった。

そこにメスを入れたのがROCK阻害薬である。Rho/ROCKシグナルは、線維柱帯細胞、シュレム管内皮細胞、細胞外マトリクス代謝の制御に関わっており、Rhoキナーゼを阻害することで房水の流出抵抗を低下させることが報告されている。実際、我々はグラナテックの使用経験を通じて、その眼圧下降作用を実感しつつある。ROCK阻害薬の登場により、主流路があらためて注目されるようになったと言える。

本セミナーでは、主流路の房水制御機構と眼圧下降療法について最新の知見を含めてご講演いただくことにした。明日の緑内障治療に役立つセミナーになるものと期待している。

講演 1

「線維柱帯へのアプローチ～手術と薬剤～」



演者 森 和彦 先生
(京都府立医科大学大学院医学研究科 視覚機能再生外科学 講師)

講演 2

「Rho-ROCKシグナルと眼圧制御機構」



演者 谷原 秀信 先生
(熊本大学大学院 生命科学研究部 眼科学分野 教授)